



西堀小だより

3月号 令和7年3月3日発行

児童数 346名

新座市西堀 2-18-3

TEL 042 (491) 6671

FAX 042 (495) 8848

【校訓】 禮儀(れいぎ) 質朴(しつぱく) 自治(じち)

【教育目標】 やさしく かしこく たくましく



パラリンピック車いすラグビー元日本代表 官野 一彦 選手 来校！

校長 鈴木 勝

春の柔らかな日差しが校庭を包み込み、西堀っ子の笑顔が一層輝いて見える季節となりました。年度の締めくくりを迎え、子供たちはそれぞれの学びを振り返り、新たな一歩を踏み出そうとしています。令和6年度も残すところ3月のみとなりました。子供たちが「本年度の学習をしっかりと身に付ける。」「今の学級がよい学級だったと思うように行動する。」この2点を達成できるように指導してまいります。

卒業を迎える6年生の皆さんには、新たな環境でも自信を持って自分の力を発揮してほしいと願っています。また、在校生の皆さんも、次の学年に向けてさらに大きく成長することを期待しています。

西堀小学校の教職員一同は、子供たち一人一人の成長をしっかりと認め、励まし、褒めていくことが、次の学年への学びと人としての成長につながると信じております。今後ともご支援の程よろしく願いいたします。

【パラアスリートと共生社会を学ぶ！！】

2月18日(火)に、本校の特色ある教育活動『プロ・本物から学ぶ体験授業』の一環として、パラリンピック車いすラグビー元日本代表の 官野 一彦(かんの かずひこ)様にご来校いただき、本校児童、保護者の皆様に出前授業を行っていただきました。

官野一彦選手のプロフィールを紹介します。

リオパラリンピック車いすラグビー銅メダリスト 障害者実業家 ライフクリエイター

野球の強豪、木更津総合高校にスポーツ推薦で入学し、1年生からレギュラーで活躍。

サーフィン中の事故(22歳)で頸椎を損傷、車いすラグビー開始。1年後日本代表選出、パラリンピック2大会(ロンドン、リオ/史上初の銅メダル)出場。

2020年引退。現在はパラサイクリングでパリ大会を目指し強化中。



今回の出前授業の大きな目的は、パラスポーツを通じて、一人一人の違いを認め、誰もが活躍できる社会の実現を目指し、車いすの官野選手とリレーをしたら、どのようにすれば皆が楽しめるかを考え、実際に挑戦することでした。

授業の前半は、官野選手のお話で、自らの闘いの日々を語っていただきました。

高校時代は、強豪校の野球部に所属し、1年生からレギュラーで活躍。残念ながら甲子園には行けず、プロを諦め、大学や企業の誘いも断ったそうです。そして始めたのがサーフィン。「女の子にもてたい、髪を伸ばしたいと思って始めたんだ。」と話されると子供たちは大笑いでした。

22歳の時、サーフィン中に波に巻き込まれ頸椎(けいつい)骨折。下半身が動かなくなってしまいました。病院では不安、恐怖、悲しみに襲われ、周囲に当たり散らし、泣き、死のうかとも思ったそうです。

しかし、官野選手のお母さんは、落ち込んでいる自分に対して明るく振る舞っていたそうです。その姿を見て官野選手は「事の重大さがわからないのか」と怒ったこともあったそうです。

入院5日目の深夜、看護で病室に泊まっていた母の鼻

をすすりあげる音を聞き、「母を泣かせないために強く生きよう、頑張ろう。」と決め、その後死にたいと思ったことは1回もなかったそうです。

不慮の事故によって一生歩けなくなってしまう時のことや、気丈に振る舞われるお母さんが陰で泣いていた姿についてお話をされていた時、子供たちは身を乗り出しながら聞いており、その表情は真剣そのものでした。

その後、官野選手が気持ちを切り替えて何事にも諦めずにチャレンジし続けた結果、パラリンピックのメダリストとなり、今でも夢に向かって頑張っているお話をされました。聞いている子供たちの胸にこみ上げてくるものがあつたのではないかと思います。

授業の後半で、官野選手と一緒にリレーをすることになりました。「どうすればかんちゃん(官野選手)と一緒に、どちらが勝つか分からない、ぎりぎりの勝負ができるか?」というテーマを設定し、1年生から6年生の縦割り班で考えました。子供たちは、最初は色々悩んでいましたが、皆で話し合う中で少しずつアイデアが出てきました。今回は代表で4つのグループのアイデアに基づいて、実際にリレーを行いました。班を2分し、どちらかのチームにかんちゃん(官野選手)が入り、アンカーの人が同時にゴールすれば100点です。

『スタート地点をずらす』『3回まわってからスタートする』などのアイデアを盛り込んだレースが展開されました。

どの勝負においてもほぼ同時にゴールすることができ、100点に近い結果が出たので、会場は大拍手で大いに盛り上がりました。

出前授業の最後に官野選手から「『できるかできないか』ではなく、『どうやったらできるか』ということをもみんなで考えることが大切」ということを教えていただきました。共生社会を実現するために大切なことをたくさん学ぶことができ、とてもよい機会になったと思います。

この『プロ・本物から学ぶ体験授業』を通して、西堀小の子供たちの豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの『生きる力』の基盤が培えればと願っています。



